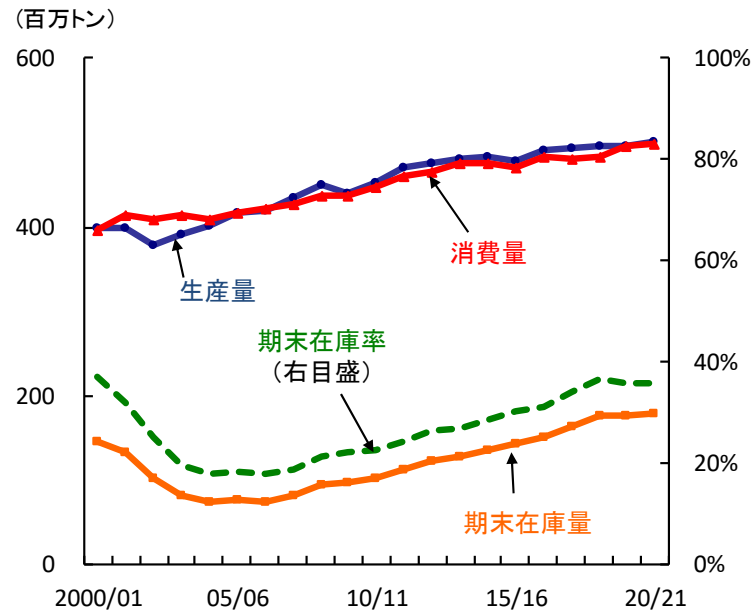


3 コメ

(1) 国際的なコメ需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2020/21 年度

- 生産量** 前年度比 ↑ 前月比 ↓
- ・バングラデシュ等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。
- 消費量** 前年度比 ↑ 前月比 ↓
- ・中国等で上方修正も、バングラデシュ等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。
- 輸出量** 前年度比 ↑ 前月比 ↓
- ・トルコ等で上方修正も、中国等で下方修正され、前月から下方修正された。
- 期末在庫量** 前年度比 ↑ 前月比 ↑



資料：USDA「PS&D」（2020.11.10）をもとに農林水産省にて作成

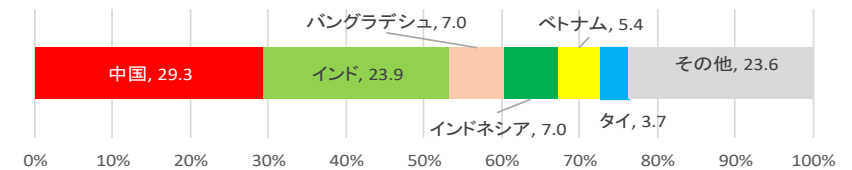
◎世界のコメ需給

（単位：百万精米トン）

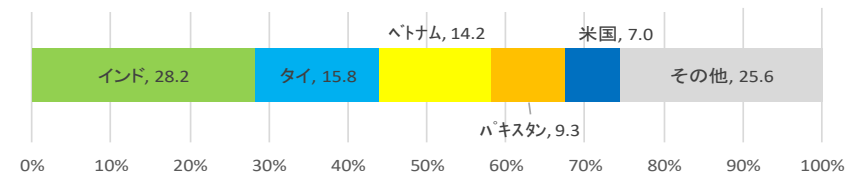
年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	497.0	496.1	501.1	▲ 0.4	1.0
消 費 量	484.3	495.1	499.2	▲ 0.2	0.8
輸 出 量	43.9	42.9	44.3	▲ 0.0	3.3
輸 入 量	44.1	41.2	42.2	0.3	2.3
期末在庫量	176.9	177.9	179.8	0.6	1.1
期末在庫率	36.5%	35.9%	36.0%	0.1	0.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」（10 November 2020）

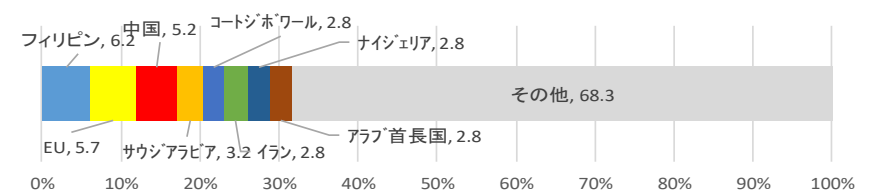
○ 2020/21年度 世界のコメの生産量（501.1 百万トン）（単位：%）



○ 2020/21年度 世界のコメの輸出量(44.3 百万トン)



○ 2020/21年度 世界のコメの輸入量(42.2 百万トン)



（２）国別のコメの需給動向

< 米国 >

【生産動向】米国農務省（USDA）によれば、長粒種が下方修正されたため、2020/21 年度の生産量は前月予測に比べわずかに下方修正され、対前年度比 22.5%増の 7.2 百万トンの見込み。このうち、中・短粒種の生産量は全体の約 25%を占める。

USDA「Weekly Weather and Crop Bulletin」(2020.11.3)によれば、11 月 1 日時点で収穫進捗率は 96%となっており、11 月中旬には概ね収穫は終了したとみられる。

【貿易情報・その他】USDA によれば、輸出量は、年度前半の輸出ペースの低下により、前月予測から 0.1 百万トン下方修正されたが、対前年度 3.0%増の 3.1 百万トンの見込み。

< インド >

【生育・生産動向】USDA によれば、2020/21 年度の実績量は、モンスーンの降雨に恵まれ、前月予測から変更はなく、対前年度 1.3%増の 120.0 百万トンの見込み。

モンスーンによる降雨に恵まれ、カリフ米は概ね収穫期を迎えている。インド農業省によれば、9 月末時点の作付済み面積は 40.1 百万ヘクタールと前年（39.0 百万ヘクタール）を 2.8%上回っている。インド東部・南部では、カリフ米の収穫後、ラビ米の作付けが開始されており、11 月 6 日時点の作付済み面積は 58.7 万ヘクタールと前年同期比 1.4%増となっている。

USDA によれば、2020/21 年度の消費量は、前月予測から変更はなく、対前年度比 0.1%増の 106.0 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2020/21 年度の輸出量は、前月予測から変更はなく、対前年度比 1.6%増の 12.5 百万トンとなる見込み。インド商工省によれば、2020 年 4 月から 8 月の輸出量累計は 334 万トンで前年同期比 25%の増加。輸出量のうち 181 万トンが高級品質のバスマティ米で、154 万トンが非バスマティ米である。輸出量は、前年度対比でバスマティ米は前年同期並みであるが、非バスマティ米が増加している。

コメー米国

主に中・短粒はカリフォルニア、長粒はミシシッピ川沿いで栽培
カリフォルニア州の全米のコメ生産に占める生産シェアは約 2 割

(単位：百万精米トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	7.1	5.9	7.2	▲ 0.0	22.5
消費量	4.6	4.6	4.6	-	1.1
輸出量	3.0	3.0	3.1	▲ 0.1	3.0
輸入量	0.9	1.2	1.2	-	▲ 0.8
期末在庫量	1.4	0.9	1.6	0.1	72.5
期末在庫率	18.8%	12.0%	20.4%	0.8	8.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	1.18	1.00	1.21	-	21.0
単収(もみt/ha)	8.62	8.38	8.48	-	1.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 November 2020)

コメーインド

雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。北部はカリフ・ラビ(小麦)の二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

(単位：百万精米トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	116.5	118.4	120.0	(120.0)	-	1.3
消費量	99.2	105.9	106.0	(105.3)	-	0.1
輸出量	10.4	12.3	12.5	(12.3)	-	1.6
輸入量	0.0	0.0	0.0	(0.0)	-	-
期末在庫量	29.5	29.7	31.2	(112.5)	▲ 0.3	5.1
期末在庫率	26.9%	25.1%	26.3%	(95.7%)	▲ 0.3	1.2
(参考)						
収穫面積(百万ha)	44.16	43.78	44.50	(44.35)	-	1.6
単収(もみt/ha)	3.96	4.06	4.05	(2.71)	-	▲ 0.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 November 2020)
IGC「Grain Market Report (29 October 2020)」(単収は精米t/ha)

< 中国 >

【生産動向】USDAによれば、2020/21年度の生産量は、前月予測からの変更はなく対前年度比0.2%増の147.0百万トンの見込み。

中国気象台の農業気象週報によれば、10月は晴天に恵まれ、多くの地域で収穫が進展し、11月までに東北地区等で栽培されている一期作稲は収穫が終了した。一方、11月時点で、二期作晩稲は湖南、江西、広東省等で収穫が行われている。

中国糧油情報センター（2020.11.4）によれば、2020/21年度の生産量は、前月予測から変更はなく、211.8百万トン(粳ベース)の見込み。そのうち、二期作早稲は27.3百万トン、一期作稲は、153.1百万トン、二期作晩稲は31.4百万トンである。全国二期作晩稲の一、二類の苗の割合は11%と83%で、前年同期（11%、84%）比、一類は前年同期並みで、二類は1ポイント低下した。

USDA によれば、飼料用、エタノール用需要の増加により、2020/21年度の消費量は前月予測から0.2百万トン上方修正され146.5百万トンの見込み。

中国糧油情報センターによれば、とうもろこしの価格上昇に伴い、コメの飼料用・工業用需要が増加している。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸出量は、国内需要の増加により前月予測から下方修正されたが、対前年度比3.8%増の2.7百万トンの見込み。

中国農業農村部の「農産品供需形勢分析月報」（10月）によれば、10月の早期インディカ、晩期インディカ、ジャポニカの卸売価格（精米）は、それぞれ3,720 元/トン（9月 3,700 元/トン）、4,200 元/トン（同 4,180 元/トン）、4,220 元/トン（同 4,280 元/トン）。

インディカ米の価格は、精米企業の原料仕入れコストがわずかに上昇したため、前月より上昇したが、ジャポニカ米の価格は、新穀が市場に出回ったため下落した。

コメー中国

北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは3割程度

(単位：百万精米トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	148.5	146.7	147.0 (148.3)	-	0.2
消費量	142.9	145.0	146.5 (147.5)	0.2	1.0
輸出量	2.8	2.6	2.7 (2.8)	▲ 0.2	3.8
輸入量	3.2	2.4	2.2 (2.2)	-	▲ 8.3
期末在庫量	115.0	116.5	116.5 (112.5)	-	0.0
期末在庫率	78.9%	78.9%	78.1% (74.9%)	0.0	▲ 0.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	30.19	29.69	29.80 (30.15)	-	0.4
単収(もみt/ha)	7.03	7.06	7.05 (4.92)	-	▲ 0.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 November 2020)
IGC「Grain Market Report (29 October 2020)」(単収は精米t/ha)

※ 一類苗：生育が正常な苗 二類苗：通常の苗よりやや小さい苗
三類苗：病気の苗、弱い苗

< タイ >

【生育・生産動向】

USDAによれば、現在生産が行われている2019/20年度(2020年1月～同年12月)の生産量は、前月予測からの変更はなく、17.7百万トンと干ばつの影響で2018/19年度を12.3%下回る見込み。

2019/20年度の雨季米の収穫は、10月下旬から東北地方で最盛期を迎え、平年より遅れていた中部でも10月下旬から収穫が開始された。11月中旬に入り晴天となったことから収穫が進展している。なお、農業組合銀行によれば、雨季米向けの降水量が十分確保されたため、生産量は前年度より増加するが、降雨過多により品質への影響が発生する可能性があるとしている。

2020/21年度(2021年1月～同年12月)の生産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比5.3%増の18.6百万トンの見込み。

11月中旬に晴天となったため、2020/21年度の乾季米の作付けが開始された。乾季米はタイのコメ生産量の2割程度のシェアを占めてきたが、タイ政府によると乾季の長期化や水不足から、乾季米の作付面積・生産量は4割程度減少すると見ている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、前月予測から変更はなく、5.5百万トンの見込み

タイ米輸出協会によれば、2020年1月から9月までの輸出量は、前年度から31.9%減少の404.2万トン。輸出先国は、米国(52.2万トン)、南アフリカ(45.7万トン)、アンゴラ(27.4万トン)の順で、米国、豪州等への輸出量が増加し、ベナン、カメルーン、セネガル向けが減少している。

USDAによれば、2020/21年度の輸出量は、前月予測から変更はなく、対年度比27.3%増の7.0百万トンの見込み。

コメータイ

夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカを栽培

(単位：百万精米トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	20.3	17.7	18.6 (19.0)	-	5.3	
消費量	11.8	12.0	12.0 (11.7)	-	-	
輸出量	7.6	5.5	7.0 (8.0)	-	27.3	
輸入量	0.3	0.3	0.2 (0.3)	-	▲ 20.0	
期末在庫量	4.2	4.6	4.4 (4.6)	-	▲ 4.3	
期末在庫率	21.9%	26.5%	23.4% (23.5%)	-	▲ 3.1	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	10.83	9.89	10.30 (10.40)	-	4.1	
単収(もみt/ha)	2.85	2.70	2.74 (1.82)	-	1.5	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 November 2020)
IGC「Grain Market Report (29 October 2020)」(単収は精米t/ha)

<ベトナム>

【生育・生産動向】USDAによれば、現在生産が行われている 2019/20 年度(2020 年 1 月～2020 年 12 月)の生産予測は、前月予測から変更なく 27.2 百万トンの見込み。現在、主に、ベトナム北部の紅河デルタで雨季作、南部のメコンデルタで夏秋作、秋冬作の生産が行われている。作季別の生育状況等は以下の通り。

《雨季作》

収穫が 6 割程度終了した。ベトナム統計局によれば、成長期に天候に恵まれ単収は前年度より 0.02 トン増加し 5.07 トン/ヘクタールとなるものの、作付面積が 1.6%減少し 1.6 百万ヘクタールとなったことから、生産量は 6 万トン少ない 804 万トンとなる見込み。

《夏秋作》

収穫がほぼ終了した。ベトナム統計局によれば、単収は前年度より 0.09 トン/ヘクタール増加し、5.57 トン/ヘクタールとなったが、作付面積が 3.2%減少し 1.9 百万ヘクタールとなったため、生産量は 12 万トン少ない 1,108 万トンの見込み。

《秋冬作》

ベトナム農業農村開発省によれば、作付面積は、夏秋作の作付遅れの影響で前年度より 4.1%少ない、0.68 百万ヘクタールとなっている。現在、収穫が 4 割程度進展。

USDA によれば、2020/21 年度(2021 年 1 月～2021 年 12 月)の生産量は、前月予測からの変更はなく、27.0 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2019/20 年度の輸出量は、価格の上昇等により前月予測から 0.2 百万トン下方修正され、6.4 百万トンの見込み。また、2020/21 年度の輸出量は、前月予測からの変更なく対前年度比 1.6%減の 6.3 百万トンの見込み。

ベトナム税関総局によれば、2020 年 1 月から 9 月までのコメの累計輸出量は対前年度比 97.2%の 5.35 百万トン。輸出先国別にみると、フィリピンが最も多く、以下中国、マレーシアの順。中国、ガーナ、モザンビーク等への輸出量が前年度に比べ増加した。

なお、USDA「Rice Outlook」(2020.11.13)によれば、10 月の台風や洪水により国内の輸送インフラ等に影響したため、ベトナムのコメ輸出価格は上昇し、タイ産米の価格を一時的に上回った。

コメベトナム

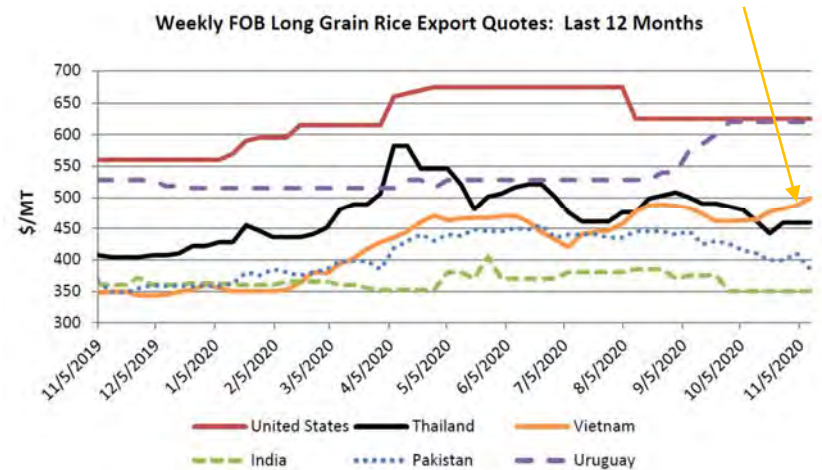
北部で二期作、南部で二期作、三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培

(単位：百万精米トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	27.3	27.2	27.0 (28.2)	-	▲ 0.6	
消 費 量	21.2	21.1	21.2 (22.4)	-	0.5	
輸 出 量	6.6	6.4	6.3 (6.4)	-	▲ 1.6	
輸 入 量	0.5	0.4	0.4 (0.6)	-	-	
期末在庫量	1.1	1.2	1.1 (3.2)	0.2	▲ 8.7	
期末在庫率	4.0%	4.2%	3.8% (11.2%)	0.7	▲ 0.4	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	7.54	7.47	7.40 (7.47)	-	▲ 0.9	
単収(もみt/ha)	5.80	5.82	5.84 (3.78)	-	0.3	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 November 2020)
IGC「Grain Market Report (29 October 2020)」(単収は精米t/ha)

図：長粒種の FOB 価格の推移 11 月に入りベトナム産がタイ産を上回る。



資料：USDA「Grain : Markets and Trade」(2020.11.10)

Ⅱ 油糧種子 大豆

(1) 国際的な大豆需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2020/21 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・米国、アルゼンチン等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

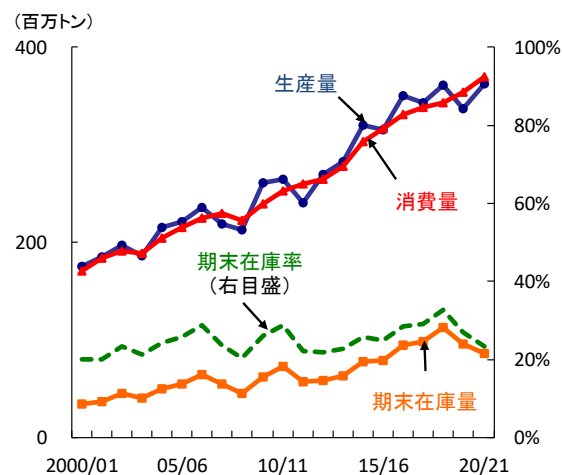
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・アルゼンチン等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・ウクライナ等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↓



資料：USDA「PS&D」(2020.11.10)をもとに農林水産省で作成

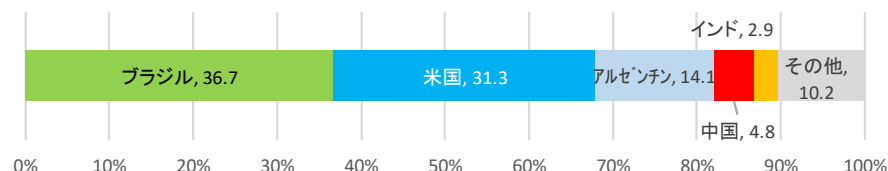
◎世界の大豆需給

(単位:百万トン)

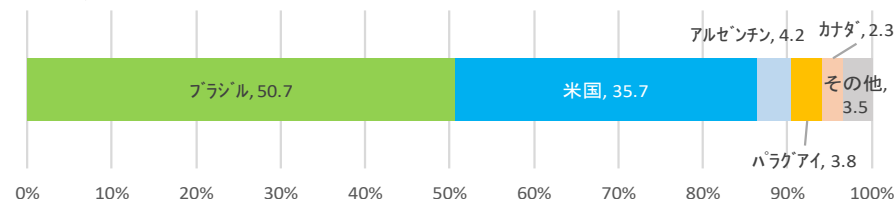
年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生 産 量	361.1	336.7	362.6	▲ 5.8	7.7
消 費 量	343.5	353.9	369.0	▲ 1.6	4.3
うち搾油用	297.9	308.3	320.9	▲ 1.5	4.1
輸 出 量	148.8	164.7	167.8	▲ 0.1	1.9
輸 入 量	145.3	164.3	165.4	0.4	0.6
期末在庫量	112.9	95.3	86.5	▲ 2.2	▲ 9.3
期末在庫率	32.9%	26.9%	23.4%	▲ 0.5	▲ 3.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(10 November 2020)

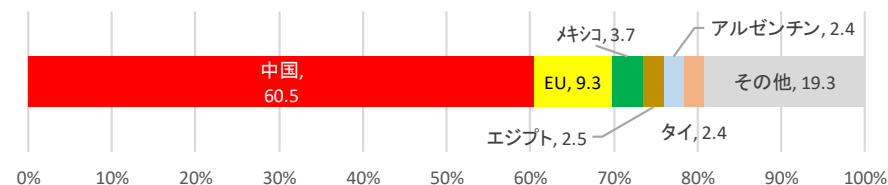
○ 2020/21 年度の世界の大豆の生産量 (362.6 百万トン) (単位：%)



○ 2020/21 年度の世界の大豆の輸出量 (167.8 百万トン)



○ 2020/21 年度の世界の大豆の輸入量 (165.4 百万トン)



(2) 国別の大豆の需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】米国農務省（USDA）によれば、2020/21 年度の実産量は、イリノイ州、アイオワ州等の単収の下方修正により前月予測から 2.7 百万トン下方修正されたものの、前年度より 17.4%増の 113.5 百万トンの見込み。「Crop Progress」（2020.11.16）によれば、収穫期の好天に恵まれ、11 月 15 日現在で主要 18 州における収穫率は 96%と収穫終盤を迎え、過去 5 年平均（93%）及び前年度同期（89%）より進んでいる。

【需要動向】USDA によれば、2020/21 年度の消費量は、前月予測から種子用消費が 0.1 百万トン上方修正され、前年度より 1.9%増の 63.1 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】2020/21 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 31.2%増の 59.9 百万トンと史上最高の見込み。輸出検証高（2020 年 1 月 2 日～11 月 5 日）は、41.9 百万トンであり、内訳は中国（20.7 百万トン）、メキシコ（3.7 百万トン）の順。

大豆－米国

(単位:百万トン)

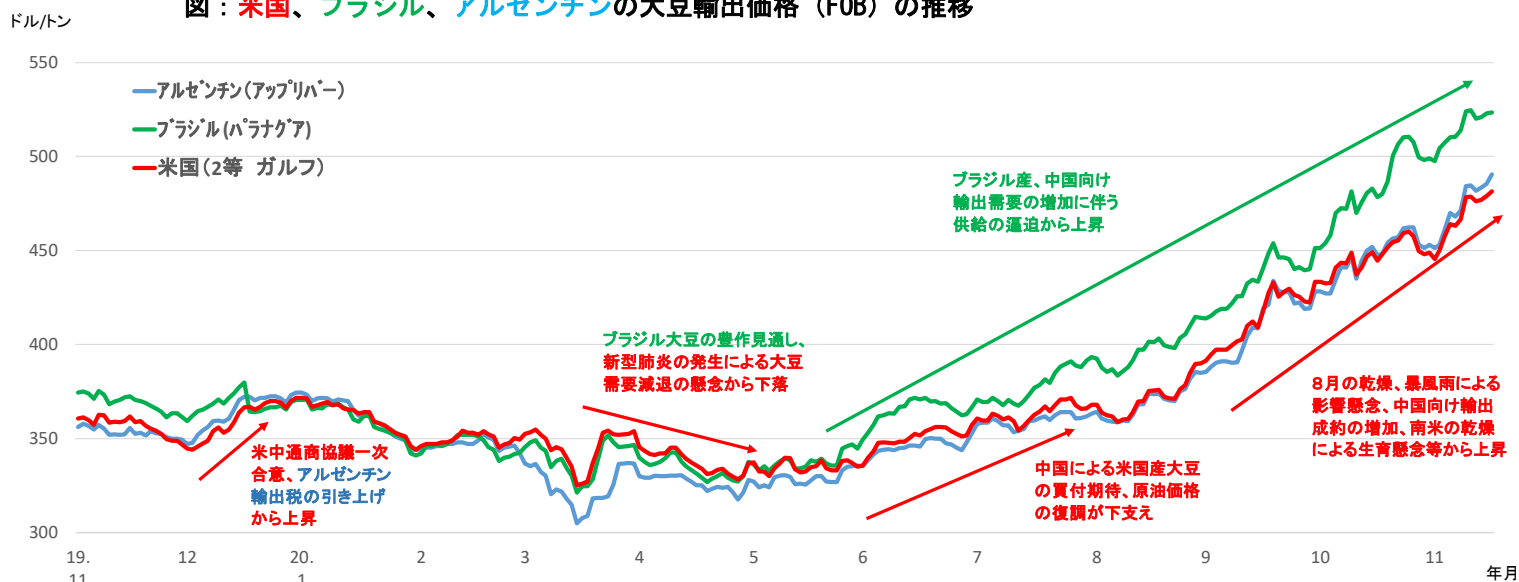
年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	120.5	96.7	113.5	▲ 2.7	17.4
消 費 量	60.4	62.0	63.1	0.1	1.9
うち搾油用	56.9	58.9	59.3	-	0.7
輸 出 量	47.7	45.6	59.9	-	31.2
輸 入 量	0.4	0.4	0.4	-	▲ 2.4
期末在庫量	24.7	14.3	5.2	▲ 2.7	▲ 63.7
期末在庫率	22.9%	13.2%	4.2%	▲ 2.2	▲ 9.0

(参考)

収穫面積(百万ha)	35.45	30.33	33.30	-	9.8
単収(t/ha)	3.40	3.19	3.41	▲ 0.08	6.9

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」（10 November 2020）

図：米国、ブラジル、アルゼンチン大豆輸出価格（FOB）の推移



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

< ブラジル >

【生育・生産状況】USDAによれば、2020/21年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より5.6%増の133.0百万トンとなり、史上最高の見込み。11月中旬にブラジル中部から南部、北東部にかけて降雨も、現在の良好な生育見込みを支援するには更なる降雨が必要。マトグロッソ州では11月20日現在の作付け進捗率は98%とほぼ終了している。南部のパラナ州での11月16日現在の作付け進捗率は92%となっている。ラニーニャ現象に伴う降雨のばらつきについて今後も注視が必要。

なお、ブラジル食料供給公社(CONAB)月例報告(2020.11.10)によれば、生産量は、前年度より8.1%増の135.0百万トンで史上最高の見込み。

【需給状況】USDAによれば、2020/21年度の消費量は、前月からわずかに下方修正されたものの、前年度より3.5%増の48.1百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、期首在庫の減少による供給量の制約から史上最大の輸出となった前年度より7.8%減の85.0百万トンの見込み。なお、世界の大豆輸出量の約半分を占め、世界第1位の輸出国を維持する見込み。

ブラジル貿易統計によれば、3月以降中国向け輸出が急増しており、2020年1～10月の輸出量は81.4百万トンで、前年同期比1.2倍となっているが、輸出可能量は残りわずかである。内訳は、中国が1位で59.5百万トンと全体の73%を占めている。

ブラジルのクロップカレンダー(中部から南部)

2020/21年度の大豆の作付けは、2020年9月以降、順次開始。

2021年2月以降収穫が行われ、その後、一部圃場で冬とうもろこしを栽培予定。

2020/21年度	2020年												2021年								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
夏とうもろこし	リオグランデス州等												収穫 26.5(百万t)								
冬とうもろこし	作付面積夏冬計 18.4百万ha												作付 14.3(百万ha)								
大豆	マトグロッソ州、パラナ州等												収穫 135.0(百万t)								

資料：CONAB穀物レポート(2020.11.10)

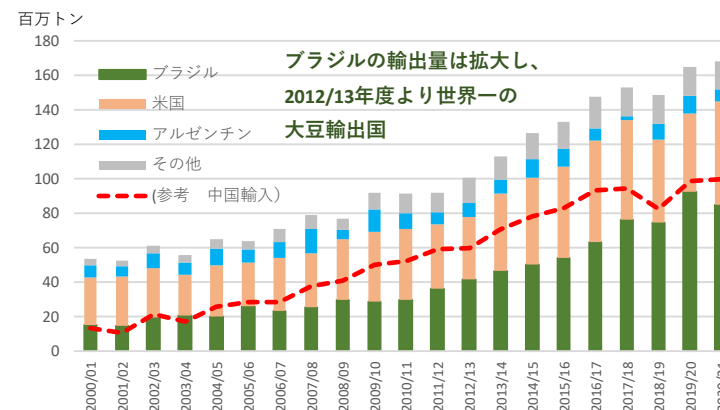
大豆ーブラジル

(単位:百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	119.7	126.0	133.0 (131.0)	-	5.6
消 費 量	45.2	46.5	48.1 (・・・)	▲ 0.0	3.5
うち搾油用	42.5	44.3	45.5 (・・・)	-	2.8
輸 出 量	74.9	92.2	85.0 (・・・)	-	▲ 7.8
輸 入 量	0.1	0.6	0.4 (・・・)	-	▲ 27.3
期末在庫量	32.5	20.3	20.6 (・・・)	-	1.5
期末在庫率	27.0%	14.6%	15.5% (・・・)	0.0	0.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	35.90	36.90	38.60 (40.30)	-	4.6
単収(t/ha)	3.33	3.41	3.45 (3.25)	-	1.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 November 2020)
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly」(13 November 2020)

図：世界の大豆輸出国の輸出量の推移



資料：USDA「PS&D」(2020.11.10)のデータをもとに農林水産省にて作成

< アルゼンチン >

【生育・生産状況】USDAによれば、2020/21年度の生産量は、ラニーニャ現象を背景に乾燥天候による小麦の減産見通しやペソ安から農家の大豆播種に必要な資金が不足することが影響し、主に収穫面積が下方修正され、前月予測から2.5百万トン下方修正されたものの、前年度より4.1%増の51.0百万トンの見込み。

ブエノスアイレス穀物取引所(2020.11.26)によれば、最近のラパンパ州、ブエノスアイレス州等主産地の降雨で、これまで遅れていた作付けが大幅に進展し、作付け進捗率は39.3%となったものの、依然として過去の平均(約45%)より遅れている。

【需給状況】USDAによれば、2020/21年度の消費量は、生産量の下方修正に伴い、前月予測から2.0百万トン下方修正されたものの、前年度より3.1%増の47.2百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、国内の搾油量の増加に加え、中国向け輸出における米国、ブラジルとの競争から、前年度より29.8%減の7.0百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2020年1～9月の輸出量は6.6百万トンで、前年同期より4%減。内訳は、1位が中国5.3百万トン(81%)、2位がエジプト57万トン(9%)となっている。

アルゼンチンは、バイオディーゼル用大豆の搾油を行うため、大豆輸出量よりも、搾油後に発生する大豆加工品の輸出が多く、大豆粕については、世界第1位の輸出国である。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019年12月から2020年3月にかけて、2段階で、大豆、大豆油、大豆粕の輸出税を約25%から30%、さらに最大33%へ引き上げた。その後、10月1日に外貨準備高の増加を促進する目的で大豆関連商品の輸出税率の一時的な引き下げを発表した。大豆の輸出税は、10月は30%に引き下げられるものの、11月に31.5%、12月に32%に引き上げ、2021年1月には再び33%に戻る。

大豆ーアルゼンチン

(単位:百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	55.3	49.0	51.0 (49.5)	▲ 2.5	4.1
消 費 量	47.5	45.8	47.2 (…)	▲ 2.0	3.1
うち搾油用	40.6	38.8	40.0 (…)	▲ 2.0	3.2
輸 出 量	9.1	10.0	7.0 (…)	-	▲ 29.8
輸 入 量	6.4	4.9	4.0 (…)	-	▲ 18.0
期末在庫量	28.9	27.0	27.8 (…)	0.1	3.0
期末在庫率	51.1%	48.4%	51.3% (…)	2.0	2.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	16.60	16.70	16.90 (16.50)	▲ 0.40	1.2
単収(t/ha)	3.33	2.93	3.02 (3.00)	▲ 0.07	3.1

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
「World Agricultural Production」(10 November 2020)
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly」(13 November 2020)

写真: 北部サンタフェ州の大豆作付け風景

(11月2日撮影)

10月後半の降雨によって必要な土壌水分が確保され、最適な時期に作付けられた。



< 中国 >

【生産・生育状況】USDAによれば、2020/21年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より3.3%減の17.5百万トンの見込み。なお、中国糧油情報センター（2020.11.4）によれば、10月の黒竜江省等東北部は日照時間が長く天候に恵まれ、収穫が大幅に進展した。11月上旬現在、大豆の収穫はすでに終了。

【需給動向】USDAによれば、2020/21年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、アフリカ豚熱の甚大な影響から回復し、養豚数の増加により大豆粕需要が高まることから、前年度より7.5%増の117.4百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、養豚産業の大豆粕需要の高まりにより前年度より1.5%増の100.0百万トンで史上最高の見込み。

中国財政部は、2月14日に、米中通商協議一次合意に伴い、米国産大豆の追加関税30%のうち、2019年9月追加分の5%分を半減させ、追加関税を27.5%まで引き下げた。さらに、財政部は、2月18日、1年間の期限付きで、輸入業者に対して、米国産大豆を始め豚肉、牛肉等の米国産品に関し、追加関税の免除手続きを公表した。

中国の貿易統計によれば、2020年1～9月の輸入量は74.5百万トンと、前年同期比で15%増。内訳は、ブラジル産56.1百万トン（75%）、米国産10.6百万トン（14%）。なお、9月の輸入量は、ブラジル産（7.2百万トン）が米国産（1.1百万トン）を上回ったものの、米国産の収穫終了に伴い、輸入先は徐々に米国産に切り替わるとみられる。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報10月号」によると、10月に新穀大豆の収穫が終盤となり、10月初めから中旬にかけて市場に集中的に出荷されたことから10月の国内価格（山東省の国産大豆工場渡し価格）は下落したものの、5,340元/トンで依然高水準である。なお、10月下旬は農家の売り惜しみで再度上昇した。一方、10月の国際価格（山東省の輸入大豆価格）は3,760元/トンと前月から6%上昇し、内外価格差はさらに縮小した。

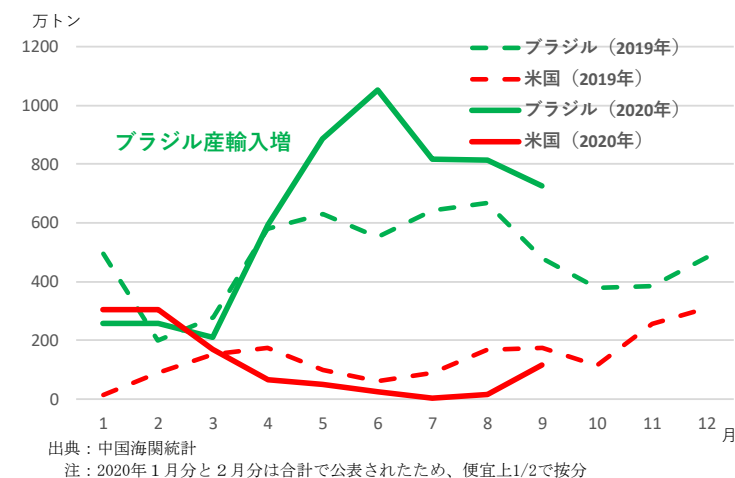
大豆－中国

(単位:百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、0はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	16.0	18.1	17.5 (17.9)	-	▲ 3.3
消 費 量	102.0	109.2	117.4 (…)	-	7.5
うち搾油用	85.0	91.5	99.0 (…)	-	8.2
輸 出 量	0.1	0.1	0.1 (…)	-	11.1
輸 入 量	82.5	98.5	100.0 (…)	-	1.5
期末在庫量	19.5	26.8	26.8 (…)	1.1	-
期末在庫率	19.1%	24.5%	22.8% (…)	1.0	▲ 1.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	8.41	9.30	9.30 (9.42)	-	-
単収(t/ha)	1.90	1.95	1.88 (1.90)	-	▲ 3.6

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 November 2020)
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly」(13 November 2020)

図：中国におけるブラジル・米国産大豆の輸入状況



< カナダ >

【生育・生産状況】USDAによれば、2020/21年度の生産量は、オンタリオ州、マニトバ州の単収の上方修正から前月予測から0.1百万トン上方修正されたものの、市場の不確実性や近年乾燥により収穫量が減少していること等から農家が大豆の作付けを減らしていることによる収穫面積の減少から前年度より0.7%減の6.1百万トンの見込み。9月から10月にかけての温暖で乾燥した天候により、前年度より早く収穫が開始され、11月中旬現在、ほぼ終了した。

【需給状況】USDAによれば、2020/21年度の消費量は、生産量の上方修正に伴い、前月予測から0.2百万トン上方修正され、前年度より3.8%増の2.9百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度より1.4%減の3.9百万トンの見込み。

大豆－カナダ

(単位:百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	7.4	6.1	6.1 (6.2)	0.1	▲ 0.7
消 費 量	3.1	2.8	2.9 (2.5)	0.2	3.8
うち搾油用	2.1	1.8	1.9 (1.9)	0.1	5.6
輸 出 量	5.3	3.9	3.9 (4.2)	-	▲ 1.4
輸 入 量	1.2	0.3	0.6 (0.4)	-	109.1
期末在庫量	0.9	0.6	0.5 (0.7)	▲ 0.1	▲ 18.0
期末在庫率	10.2%	8.3%	6.8% (10.1%)	▲ 1.7	▲ 1.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	2.54	2.27	2.00 (2.05)	-	▲ 11.9
単収(t/ha)	2.92	2.71	3.05 (3.04)	0.05	12.5

資料: USDA「PS&D」

「World Agricultural Production」(10 November 2020)

AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(20 November 2020)

写真: マニトバ州の大豆の収穫風景

(10月2日撮影)

温暖な天候に恵まれ、例年より早く収穫終了



(参考)本レポートに使用されている各国の穀物年度について (2020/21年度)

	小麦	とうもろこし	コメ	大豆
米国	20年6月～21年5月	20年9月～21年8月	20年8月～21年7月	20年9月～21年8月
カナダ	20年8月～21年7月			20年8月～21年7月
豪州	20年10月～21年9月		21年3月～22年2月	
EU	20年7月～21年6月	20年10月～21年9月		
中国	20年7月～21年6月	20年10月～21年9月	20年7月～21年6月	20年10月～21年9月
ロシア	20年7月～21年6月	20年10月～21年9月		20年9月～21年8月
ブラジル		21年3月～22年2月	21年4月～22年3月	20年10月～21年9月
アルゼンチン	20年12月～21年11月	21年3月～22年2月		20年10月～21年9月
タイ			21年1月～12月	
インド	20年4月～21年3月		20年10月～21年9月	
ベトナム			21年1月～12月	

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。

例えば、2020/21年度は、米国の小麦では2020年6月～2021年5月、ブラジルのとうもろこしでは2021年3月～2022年2月です。

なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads> (「Reference Data」タブを参照)

【利用上の注意】

海外食料需給レポートは、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関（各国政府機関、FAO、IGC等）の公表資料、Oil World 等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

- **海外食料需給レポートで使用している統計数値は、主に米国農務省が 2020 年 11 月下旬までに発表した情報を引用しています。**

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY_REPORTS

主な参考資料

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/grain-world-markets-and-trade>

「Oilseeds : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/oilseeds-world-markets-and-trade>

「World Agricultural Production」

<https://www.fas.usda.gov/data/world-agricultural-production>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

など

- **データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されますので留意してください。**
- 資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。
- 資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場等の換算レートを用いています。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>

(注：同サイトの「Reference Data」を参照)

- 期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。
- 本資料の引用等につきましては、出所（農林水産省発行「海外食料需給レポート」）を併記願います。
- 本文中の略称については以下のとおりです。

FAO	国連食糧農業機関
IGC	国際穀物理事会
USDA	米国農務省
AAFC	カナダ農務農産食品省
ABARES	豪州農業資源経済科学局
CONAB	ブラジル食料供給公社
JAXA	宇宙航空研究開発機構

なお、生産見通し等の予測は、各国国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。

英国については、2020年1月31日付けでEUを離脱しました。英国の小麦に関する情報についてはEUの小麦のコーナーで取り扱います。

- 本レポートの電子版は下記アドレスでご覧になれます。

農林水産省 海外食料需給レポート

http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html

- 本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

連絡先	農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室 TEL：03-6744-2368（直通）
------------	---